

④日本分類

68 B 12
65 A 313

⑤日本国特許庁

公開実用新案公報

⑥実開昭49-77564

庁内整理番号 8459-32
6954-22

⑦公開 昭49(1974). 7. 4

審査請求 有

⑧冷凍装置における分岐用の継手

⑨実 願 昭47-121975

⑩出 願 昭47(1972)10月21日

⑪考 案 者 山田榮作
東京都練馬区下石神井1の211同 浅川成
静岡市安東町2の2の11⑫出 願 人 川村粉管工業株式会社
東京都中野区若宮3の15の8

⑬代 理 人 弁護士 丹生康吉 外3名

⑭実用新案登録請求の範囲

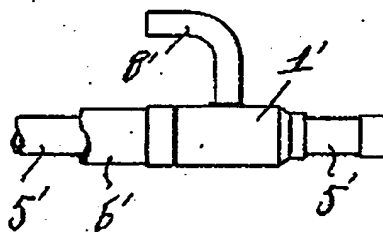
一端に内管を挿通した外管の端部を嵌合する接

続部と、他端は一端を徐々に膨大させて分岐し、前記外管に挿通した内管が貫通する接続部と、外管に通した出口管を嵌合する接続部を設けた継手本体を有し、該継手本体の前記各接続部は夫々外管、内管出口管と螺付等で密封してなる冷凍装置における分岐用の継手。

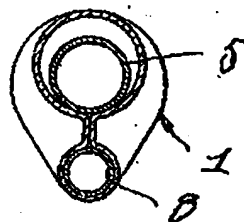
⑮図面の簡単な説明

図面は本考案に係る冷凍装置における分岐用継手の一実施例を示すもので、第1図は従来使用されている継手の正面図、第2図は本考案に係る継手の縦断正面図、第3図は第2図A-A線の断面図である。1は継手本体、2、3、4は接続部、5は内管、6は外管、7は螺付部、8は出口管、9は螺付部。

第1図

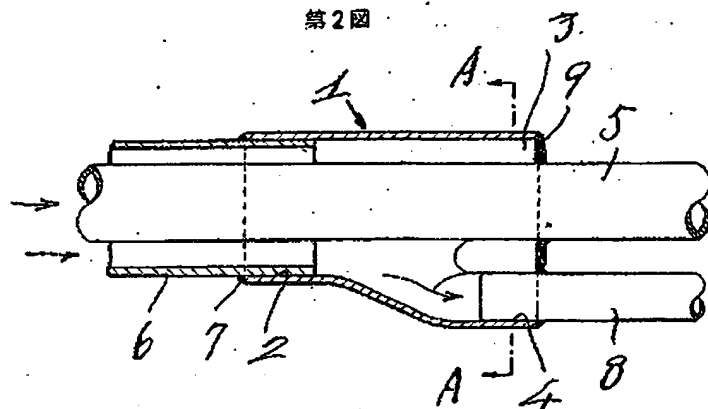


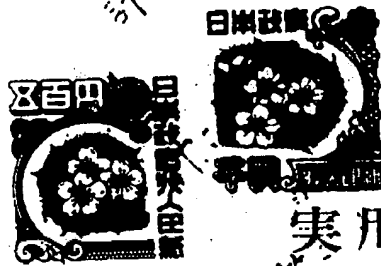
第3図



実開 昭49-77564(2)

第2図





實用新案登録願

(1,500)

昭和47年10月21日

特許庁長官 三宅 幸夫 殿

1. 考案の名称
冷凍装置における分岐用の継手
2. 考案者
東京都練馬区下石神井1-211
山田 栄作 (外1名)

3. 實用新案登録出願人
東京都中野区若宮3丁目15-8
川村積善工業株式会社

4. 代理人
代表者 川村 太洋

〒103 東京都中央区日本橋通2丁目2番地

(2367) 弁護士 丹 生 藤 吉

外 3 名

電話 (271) 3751 番 (代表)

5. 添付書録の目録

- | | | |
|-------------|---|---|
| (1) 明 細 書 | 1 | 通 |
| (2) 図 面 | 1 | 通 |
| (3) 願 書 副 本 | 1 | 通 |
| (4) 委 任 状 | 1 | 通 |
| (5) 印 影 照 本 | 1 | 通 |

47 121975

明 細 書

1 1
1 考案の名称 冷凍装置における分岐用の継手

2 実用新案登録請求の範囲

一端に内管を挿通した外管の端部を嵌合する
5 接続部と、他端は一端を徐々に膨大させて分岐
し、前記外管に挿通した内管が貫通する接続部
と、外管に通した出口管を嵌合する接続部を設
けた継手本体を有し、該継手本体の前記各接続
部は夫々外管、内管出口管と嵌付等で密封して
10 なる冷凍装置における分岐用の継手。 10

3 考案の詳細な説明

本考案は、冷凍装置における冷媒回路、水回
路の分岐用の継手に関するものである。

従来この種の継手は、第1図に示すように継
15 手本体1の一端に外管6'を接続すると共に、こ 15
の外管6'と継手本体1'を貫通して内管3'を設け、

更に継手本体 1'には直角方向に出口管 8'を前記
外管 8'に連続するようにして接続したものであ
るが、外管 8'を流れる媒介或は水は、直角方向
の出口管 8'を通つて流れるために分岐部分で渦
流が生ずる、従つて渦流のために腐蝕が生じた
り、音を発生する欠陥がある。

本考案は前記の欠陥を是正するため流れを円
滑に行なわせることを目的に提供するものであ
る。

以下本考案に係る冷凍装置における分岐用継
手の一実施例を図面について説明する。

1 は一側を直線状に、他側は一方の端部を膨
大して形成し、一端は大径とした接続部 2 と、
他端膨大部は、これを二つに分割して接続部 3

と 4 に分岐した継手本体で、該継手本体 1 の一
端大径接続部 2 には内管 5 を挿通した外管 6 の

1 端部を嵌合させると共に、本体 1 の端縁を嵌付
7 する一方、外管 6 内に挿通した内管 5 を本体
1 を通して他端側の側部を直線状とした側の接
2 続部 3 を貫通して位置させ、更に他方の接続部
5 4 には、前記本体 1 の端部に接続した外管 6 に
連絡して通ずる出口管 8 を接続して、前記内管
5 と出口管 8 を本体 1 の端縁に嵌付 7 して密封
させたものである。

本考案は前記の構成で、一端は外管 6 の一端
10 を嵌合する大径の接続部 2 と、他端は、前記外
管 6 内に挿通した内管 5 を貫通する接続部 3 と、
前記外管 6 に通ずる出口管 8 の端部を嵌合する
接続部 4 を分岐して設けた継手本体 1 を形成し、
この両端は夫々嵌付 7 及び 9 で密封されていて、
15 外管 6 内は内管 5 を流れる冷媒介質は水は、内
管 5 の場合は直線にて流れ、外管 6 を通る流体

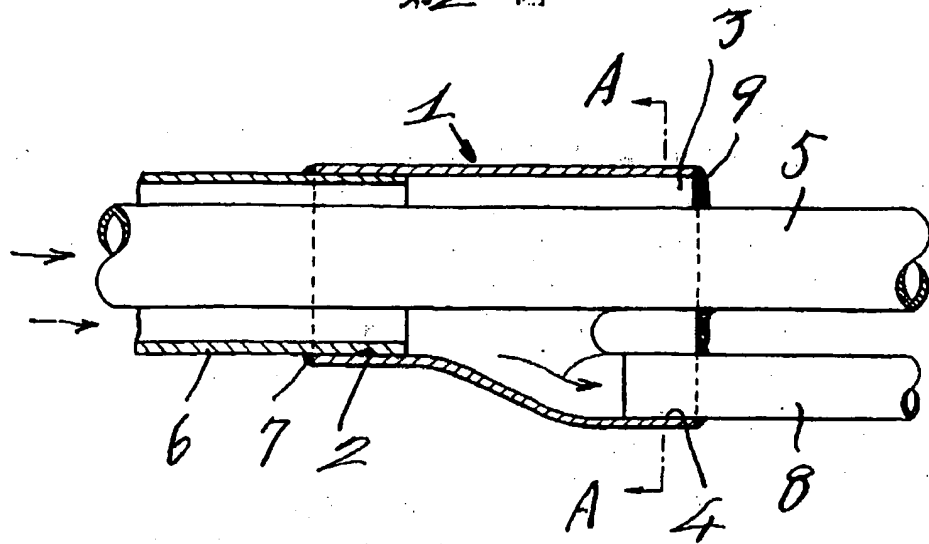
1 はこれに分岐された出口管 δ に膨大部に沿つて
円滑に流れるのであつて、従来のように直角方
向に流れないので出口管 δ で渦流を生ずること
がなく更に音を発生することがなく、内面に沿
5 つて流れる。従つて障害がないので無阻な流れ
がないから腐蝕することがなく長期の使用に耐
える等の効果がある。

4 図面の簡単な説明

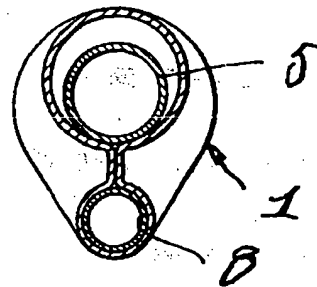
図面は本考案に係る冷凍装置における分岐用
10 継手の一実施例を示すもので、第1図は従来使
用されている継手の正面図、第2図は本考案に
係る継手の縦断正面図、第3図は第2図A—A'
線の断面図である。

1～継手本体、2、3、4～接続部、5～内管、
15 6～外管、7～継付部、8～出口管、9～継付
部、

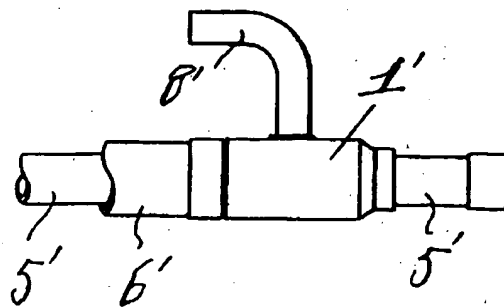
第2圖



第3圖



第1圖



6. 前記以外の

考案者及び

出願人

又は代理人

(1) 考案者

ミズオカシ アンドウヨウ
静岡県東町2-2-11
アサカ タシ
浅川 武

53第1

(2)

出願人

〒□□□-□□

(3) 代理人

東京都中央区日本橋通2丁目2番地

(2297) 弁理士 安藤 政一

同 所

(5923) 同 土橋 秀夫

同 所

(7419) 同 江藤 剛

電話 (271) 3751 番(代表)